ベルトコンベア 350幅

【KMTS型(標準)モータタイプ】

■特徴、用途

☒木材チップや穀物類等、比較的見掛比重の少ない搬送に。

☒土木工事等で、重機が使用できない現場での土砂の運搬に、
又遺跡の発掘調査に。

☒畜産、農業関係での飼料や肥料、堆肥の運搬に、
又育苗プラントの育苗土運搬に。

☒一般産業設備や各種プラント類の原材料等のバラ物搬送に。

型式		KMTS35-3	KMTS35-4	KMTS35-5	KMTS35-7
機長	m	3	4	5	7
ベルト幅	mm	350			
ベルト仕様		KMTS 型			
電圧	V	3相　200			
モータ出力	Kw	1.0			
ベルト速度	m/min	38 / 46　(50/60HZ)			
寸法　全幅W	mm	370			
全高H	mm	366			
質量	kg	116	143	152	192

土砂、砂利、木材チップなどバラ物運搬に最適
リサイクル関連、食品、農業など様々な分野で
ご利用いただけます

■ 搬送物

バラ物 (土砂、砂利、木材チップなど)

■ ベルト幅 (mm)

３５０

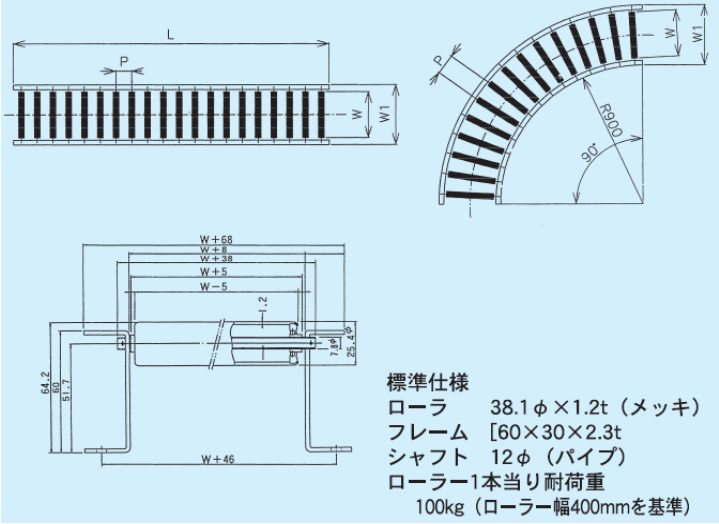
型　式	ベルト幅 (mm)	機長 (m)	コンベヤベルト ベルト幅×張力×長さ	最大運搬力 (m³/h)		モータプーリ		ベルト速度m/min		重量 ≒kg
				50Hz	60Hz	出力 (kw)	電源	50Hz	60Hz	
KMTA 35- 3	350	3	350×100N/mm× 5.65m	21	25	1.0	3相 200/220V 50/60Hz	37	45	120
KMTA 35- 4	350	4	350×100N/mm× 7.65m							145
KMTA 35- 5	350	5	350×100N/mm× 9.60m							155
KMTA 35- 7	350	7	350×100N/mm×13.60m							190

ベルトコンベア　600幅

●3点キャリヤ式
●ベルト幅(cm):60
●機長(m):5/7
●モータープーリ:出力(KW)…2.2電源(V:Hz)…三相(200/220:50/60)
●ベルト速度(m/min):50Hz…52/60Hz…62
●水平時運搬能力(m3/h)50Hz…107/60Hz…128

型式	KMWH60-5	KMWH60-7
製品名	ベルトコンベア	
ベルト幅(ｃｍ)	60	
機長	5m	7m
騒動方式	ＭＰ	
MPモータ容量	2.2	
ローラー受け方式	3点式キャリア(WH)	
ベルト仕様	125N/mm×3.0×1.5	
キャリアピッチ	≒750	
トラフ角	30°	
キャリアローラ	76.3	
リタンローラ	76.3	
スナブローラ	114.3	
テールローラ	216.3	
テール部スカート	積み込みホッパ	
フレーム	φ42.7	

ローラーコンベア　600幅　2M/3M

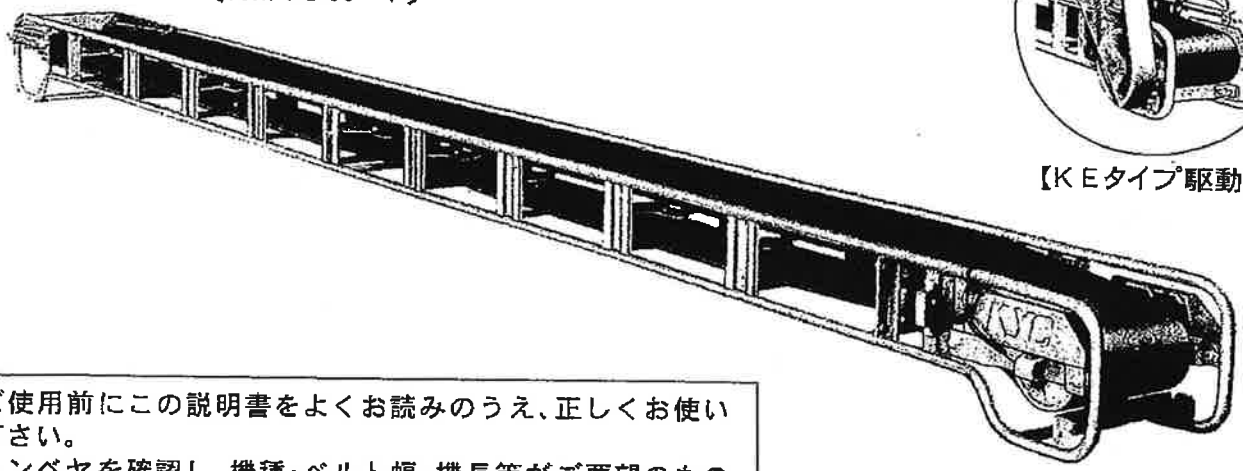


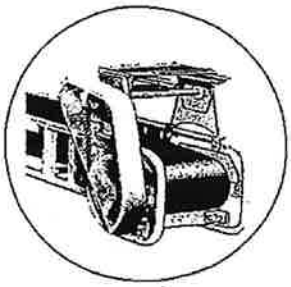
型式	TCM-3812
機幅(W1)	668
ローラー幅(W)	600
ローラー間隔(P)	75
機長(L)	2M/3M
自重	40kg/60kg

KYCベルトコンベヤ ▶取扱説明書◀

お願い
この説明書は実際にご使用になられる方のお手元に必ず届くようお取り計らいください。

〔KMTS35−7〕





【KEタイプ駆動部】

★ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。
★コンベヤを確認し、機種・ベルト幅・機長等がご要望のものと一致しているか確認して下さい。
★輸送中の事故などで破損した箇所はないか、調べて下さい。

◆ 使用前の注意事項

▶KMTSタイプ(モータプーリ駆動)

(1)電源は機種に適合していますか？
・標準は200V(50・60Hz)三相です。

(2)漏電による事故とモータ焼損保護のため、漏電ブレーカー及びモータ保護機器を取付け、アースも確実に取って下さい。
(3)コネクタは根元までしっかり差し込んで下さい。
(4)コンベヤを少し運転し、ベルトの走行方向を確認して下さい。
・逆方向に動けばコネクタを上下逆に差し替えて下さい。

▶KETSタイプ(エンジン駆動)

(1)エンジン架台にエンジンを取付け、コンベヤ使用時エンジンが水平になるよう調整のうえVベルトカバーを取付けて下さい。
(2)ドライブプーリ側のVベルトの張りは、指で押して6～10㎜沈む程度に調整して下さい。
(3)テンションボルトを緩め、エンジン単独で始動し、次にテンションボルトを廻しVベルトを張って下さい。

▶安全運転のための注意事項

(1)コンベヤの運転は所定の安全教育を受け指名された人が行なって下さい。
(2)コンベヤを運転する前には、安全点検を確認してから運転するようにして下さい。
(3)コンベヤの上に乗ったり、またいだり、回転体にふれたりしないで下さい。
(4)コンベヤの下には入らないで下さい。
(5)搬送物を載せたまま始動しないで下さい。
(6)正逆運転仕様の場合、正逆の切替はコンベヤが完全に止まってから行なって下さい。

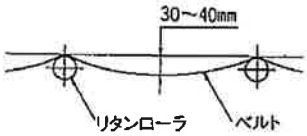
◆調　　整

▶ベルトの緊張

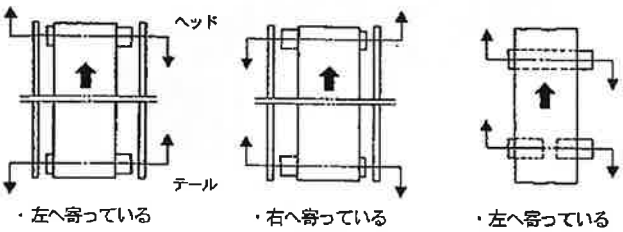
ベルトは一度調整しても使用している内に伸びてくるので定期的に調整して下さい。ベルトの張りが弱いとベルトがスリップします。

(1)アジャストボルトを交互に少しづつ回し、テールローラを移動することによりベルトを張って下さい。

(2)ベルトの張りは右図のようにリタンローラの間でベルトのたるみが30～40㎜程度になるように調整して下さい。



▶ベルトの蛇行



各々のプーリ・ローラを矢印の方向へ動かしてください。ベルトは中央へ寄ってきます。

◆保守・点検

保守・点検は必ずコンベヤの停止中に行って下さい。

(1)ベルトの蛇行……蛇行調整をして下さい。

(2)ベルトのスリップ……ベルトを張って下さい。
　　……モータプーリ(ドライブプーリ)の表面の付着物を除去して下さい。

(3)荷の積過ぎ……荷を少なくして下さい。

(4)ローラの回転不良……ローラを交換して下さい。

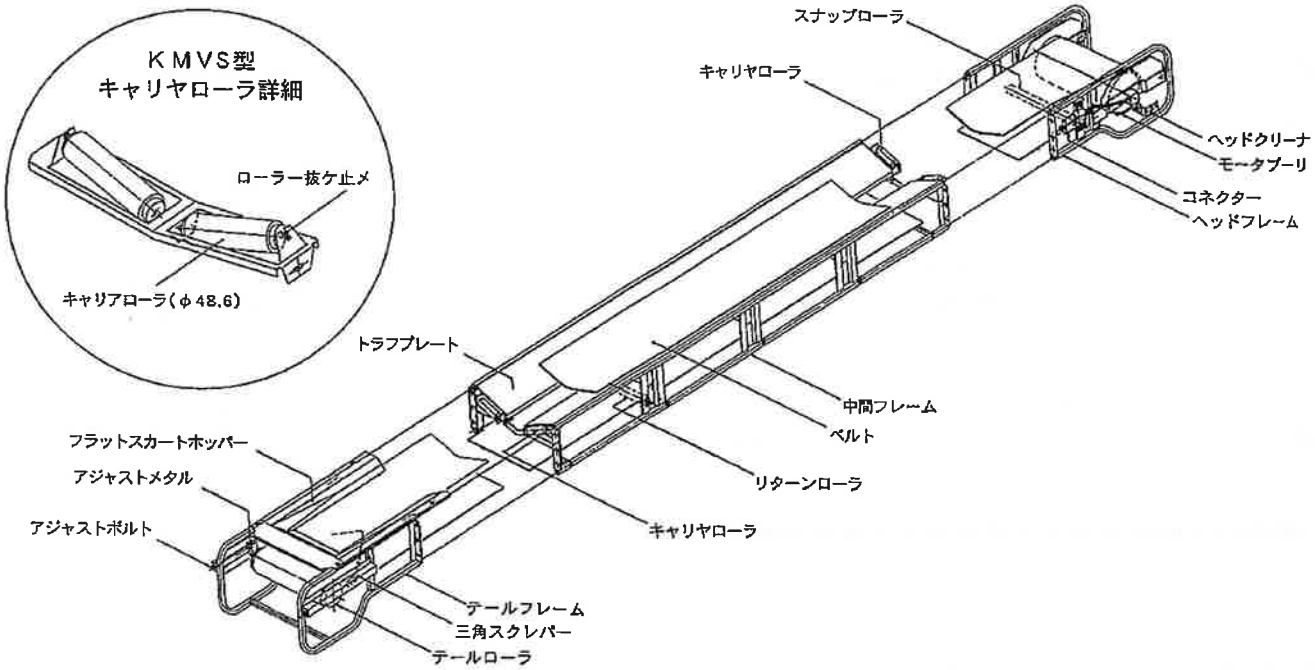
(5)プーリ／ローラのケークの付着……異物を除去して下さい。
　　……付着物を除去して下さい。

(6)ベルトの損傷……補修・交換して下さい。

(7)クリーナ・スクレーパのゴムは正しくベルトに当っているか……ゴムを調整して下さい。

(8)電気部品は正常か……コード・スイッチ・コネクタ等をチェックして下さい。

(9)Vベルトの張りは適正か。……調整して下さい。



光洋機械産業株式会社

本　社　大阪府大阪市中央区南本町2丁目3番12号エィディビル　☎06(6268)3190(代)

東京支社 ☎(03)3534-8800　広島支店 ☎(082)295-1106　西脇工場 ☎(0795)25-0700　静岡営業所 ☎(054)284-5661
大阪支社 ☎(06)6266-8801　高松支店 ☎(087)868-5700　札幌営業所 ☎(011)764-9691　鹿児島営業所 ☎(099)255-5357
名古屋支店 ☎(052)486-1321　福岡支店 ☎(092)642-7330　仙台営業所 ☎(022)388-7666　新潟営業所 ☎(025)286-2125

コンベヤプロテクトシステム
Ⅱ型
取扱説明書

モデルコンベヤ：　KMTS35－7

KYC 光洋機械産業株式会社

はじめに

このマニュアルは、ご使用になる方のお手元に必ずお届けください。
よくお読みの上お手元に保存し、必要なときお読みください。

◎◎◎ 安全上のご注意 ◎◎◎

【　ご使用になる前に必ずお読みください　】

ご使用に際しては、本取扱説明書をよくお読みいただくと共に、安全に対して充分に注意を払って正しい取り扱いをしていただくようお願いいたします。

このマニュアルでは、安全事項のランクを「危険」「警告」「注意」に区分しています。

・危険	・警告	・注意
取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されます。	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。	取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定されます。

・危険

★ 電源ケーブルをつなぐ際には、電源ブレーカ･起動スイッチを必ず切ってください。
（死亡または重傷のおそれがあります。）

★ 運転中のコンベヤの回転部及びベルトには触れないでください。
（巻き込まれる恐れがあります。）

★ 運転中のコンベヤの下に入ったり、乗ったりしないでください。
（死亡または重傷の恐れがあります。）

★ コンベヤ本体へのアースは確実にとってください。（感電の恐れがあります。）

★ モータ等の充電部には触れないでください。（感電の恐れがあります。）

・警告

☆ 始動時･運転中には、コンベヤ付近の安全を確認してください。
（死亡または重傷の恐れがあります。）

☆ 安全カバー等をはずして運転しないでください。（巻き込まれる恐れがあります。）

☆ コンベヤに適合した漏電ブレーカ･モータ保護装置がある電源を使用してください。
（感電やモータ焼損による火災の恐れがあります。）

☆ 移動･点検･清掃時には、電源を切ってください。
（けがをしたり、装置･器物を壊す恐れがあります。）

・注意

（けがをしたり、装置･器物を壊す恐れがあります。）

◇ コンベヤの据え付け･組立に際しては、安全教育を受け、装置に対する充分な知識を持たれた方が行ってください。

◇ 安全な作業服･安全帽･安全靴･保護具を正しく装着し、作業を行ってください。

◇ カタログ･取扱説明書等に記載された使い方以外は、しないでください。

◇ 純正品を使用してください。

◇ 日常点検を行ってください。

目 次

1．組み立ての注意事項 …… 2
2．部品内容 …… 2～3
3．取り付け手順 …… 4～5
4．ワイヤトリップスイッチ取扱説明 …… 6
5．モータブレーカ取扱説明 …… 7～8
6．取付要領図 …… 9
7．配線図 …… 10
8．組立図 …… 11

1. 組立の注意事項

a) 寸法に適合した工具を使用し、無理な力を加えないようにし、ボルト、ナットは各部均等に締め付けて下さい。

b) ボルト、ナット、ワッシャ等細かい部品は紛失しないよう整理し、正規のものを取り付けて下さい。

c) 部品を一度取り外し、再度取り付けることもあります。その際には、取付方法、取付位置等を十分に確認しておいて下さい。

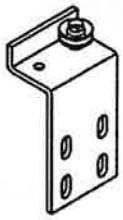
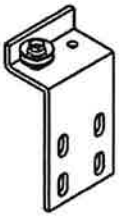
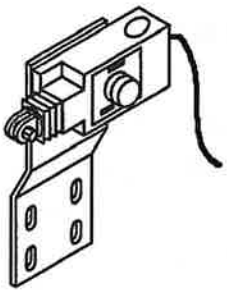
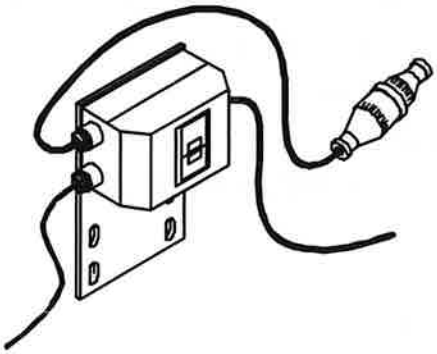
d) コンベヤ組立の際、ボルトピッチが合わないからといってみだりに穴を開けるのは、なるべく避けて下さい。

e) 各機器の芯出しを確実に行って下さい。

f) コンベヤ組立の際、安全意識をもって作業を行って下さい。

2. 部品内容

次のページの表に示しますよう部品が納入されているかご確認ください。また、数量もご確認ください。（数量は、機長７ｍのコンベヤ１台分の数量を示します。）

部品番号	部品名称	規格	数量
①	ワイヤー支持金具	ボルト:M10×35L	5
		アイナット:M10	5
		PW(プレートワッシャ):M10用	5
		SW(スプリングワッシャ):M10用	5
		スペーサ:φ25×15L×穴φ12	5
②	ワイヤー回転用ブラケット(左用) (回転用部品取り付け済み)	 ※テールから見て左側に取り付け用です。	1
③	ワイヤー回転用ブラケット(右用) (回転用部品取り付け済み)	 ※テールから見て右側に取り付け用です。	1
④	コンベヤプロテクトシステム 非常停止用ワイヤートリップスイッチ部 (取付ブラケットに取り付け済み) (キャプタイヤコード取り付け済み) ※モータブレーカとキャプタイヤコードでつながっています。	 スイッチ規格:XY2−CH13250	1
⑤	コンベヤプロテクトシステム モータブレーカ部 (取付ブラケットに取り付け済み) (キャプタイヤコード取り付け済み) (ゴムコードコネクタ取り付け済み) ※非常停止用ワイヤートリップスイッチとキャプタイヤコードでつながっています。	 内部モータブレーカ規格:GV2−M10 ゴムコードコネクタ(オスメスセット品):WA3415	1
⑥	ブラケット取付用Uボルト	Uボルト:M10×25A	8
		ナット:M10	16
		PW(プレートワッシャ):M10用	16
⑦	ワイヤーロープ	φ2(黄色ビニール被覆付)	12m…1本
⑧	ワイヤークリップ	φ2用	4

3. 取り付け手順

1. ワイヤー支持金具(①)の取り付け

取付要領図「C部」をご参照の上、ヘッド側ワイヤー支持金具(1箇所)を取り付けてください。尚、このワイヤー支持金具のみアイナットを横向きにしてください。(「H部」参考。)

また、取付要領図「F部」をご参照の上、ワイヤー支持金具(全部で4箇所)を取り付けてください。(組立図参考。)

2. 回転用ブラケット(②③)の取り付け

取付要領図「G部」をご参照の上、回転用ブラケット(左側:1箇所、右側:1箇所)を取り付けてください。回転部分がヘッド側になるようご注意ください。

3. 非常停止用ワイヤートリップスイッチ部(④)の取り付け

取付要領図「E部」をご参照の上、非常停止用ワイヤートリップスイッチ部を取り付けてください。

4. モータブレーカ部(⑤)の取り付け

取付要領図「D部」をご参照の上、モータブレーカ部を取り付けてください。

5. ヘッド側ワイヤーロープ端部の取り付け

取付要領図「H部」をご参照の上、ワイヤーロープ端部をワイヤークリップ(⑧):2ケにて取り付けてください。

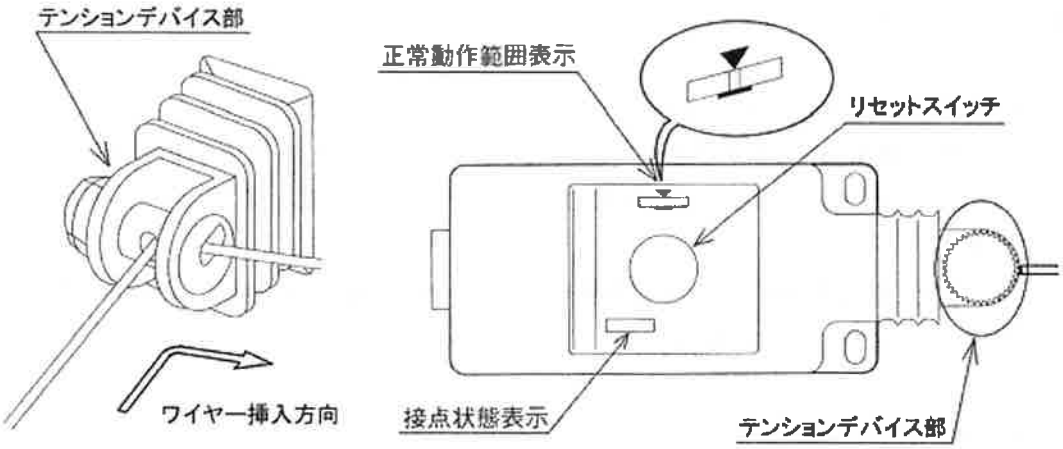
6. ワイヤーロープ(⑦)の取り付け

取付要領図の全体図をご参照の上、手順5とは反対側のワイヤーロープの先端を各ワイヤー支持金具(アイナット)の穴の中を通し、各ワイヤー回転用ブラケットの回転部の隙間の部分を通して、ワイヤートリップスイッチの方までたぐり寄せてください。

7. スイッチ側ワイヤーロープ端部の取り付け

次ページの図をご参照の上、ワイヤーロープ端部をワイヤートリップスイッチの先端(テンションデバイス部)の穴に通してください。その部分をまわすことによってワイヤーロープにテンションをかけ、正常動作範囲表示内部の中心線が▼マークに合うように調整してください。調整し終えましたら、リセットスイッチを押して接点状態表示内部が黄色から緑色に変わることを確認してください。

詳しくは、「ワイヤトリップスイッチ取扱説明」(6ページ)をご参照ください。



ワイヤーロープの張り具合いが決まりましたら、取付要領図の全体図をご参照の上、ワイヤーロープ端部をワイヤークリップ（⑧）：２ケにて取り付けてください。取り付け方はヘッド側（手順５）と同じ要領です。

8. 配線

既存のモータプーリ～コネクタ間のキャプタイヤコードをコネクタより取り外してください。取付要領図及び配線図をご参照の上、キャプタイヤコードを配線してください。

この際に、キャプタイヤコードがコンベヤベルトにこすれないようにしておいてください。また、ゴムコードコネクタ（・）が垂れ下がらないようインシュロック帯等で固定してください。

9. 確認

コンベヤ試運転を行い、スイッチがきちんと作動するかご確認ください。

※注意

a. コンベヤ本体に取り付けるブラケット取付用Uボルト（⑥）は、ゆるみの無いよう強めに締め、確実に固定してください。

b. 配線作業の際には、必ず電源を切った状態にて行ってください。

*c. **通常の電源の入切は、必ずコネクタ(・)で行ってください。**モータブレーカ部のON･OFFスイッチは、非常停止を行いブレーカを復帰するときのみにご使用ください。*

d. 本取扱説明書の部品番号と、組立図に示す品番とは異なっていますので混同されないようご注意ください。

4. ワイヤトリップスイッチ取扱説明

ワイヤトリップスイッチ

XY2-C

取扱説明
XY2-CH

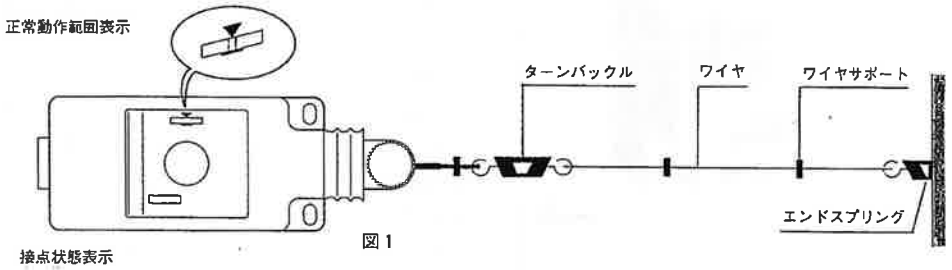


図1

このワイヤトリップスイッチは、ワイヤを引いてもワイヤが切れても動作します。そのため、工場出荷時には、トリップ状態になっています。

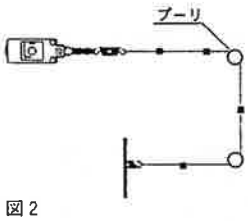


図2

1 設置方法（図1）

1.1 本体を固定します。

1.2 ワイヤの長さが10mを超える場合はワイヤサポートを適当な位置に設置して下さい。
その際、ワイヤを引いても、ワイヤの結び目が最初のワイヤサポートにあたらないよう注意して下さい。ワイヤの終端にエンドスプリングを設置して下さい。

1.3 ワイヤを張ります。
調整を簡単にするために、テンションデバイス付（図4）でないものは、ターンバックルを設置して下さい。
注意：ワイヤをクランク張りにする場合は、コーナーにプーリを設置して下さい。（図2）

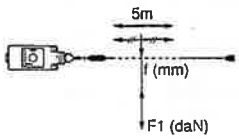


図3

2 調整方法（図1、3）

2.1 テンションデバイスまたはターンバックルを調整して、正常動作範囲表示をみながら、その範囲の中心をプレート上の▲マークに合わせて下さい。

2.2 リセットボタンを押して、接点状態表示が変ることを確認して下さい。
接点状態表示が
黄 → トリップした状態（a接点：閉、b接点：開）
緑 → トリップしていない状態（a接点：開、b接点：閉）

2.3 操作力・引き幅参考値（図3）
ワイヤ 3.2Ø 10m
トリップに必要な力 F1 : 2 daN (2kg・f)
ワイヤの引っ張り幅 f : 160mm

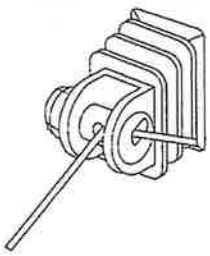


図4

ワイヤを先端にからめ、
その部分をまわすことによって
ワイヤにテンションをかけます

3 取扱上の注意

3.1 内部のラッチ機構には、絶対に触らないで下さい。

3.2 リセットできない場合は、正常動作範囲からはずれている可能性があります。
正常動作範囲を確認し、ターンバックル又はテンションデバイスで再調整して下さい。

5. モータブレーカ取扱説明

国際仕様モータブレーカ

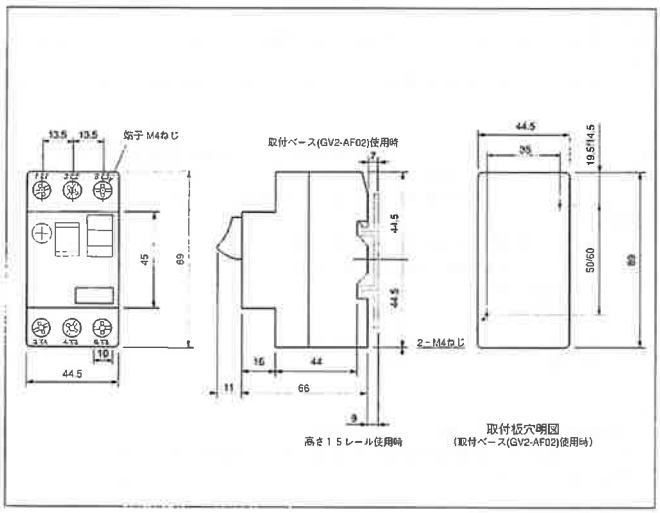
GV2-M

(1)定格・性能

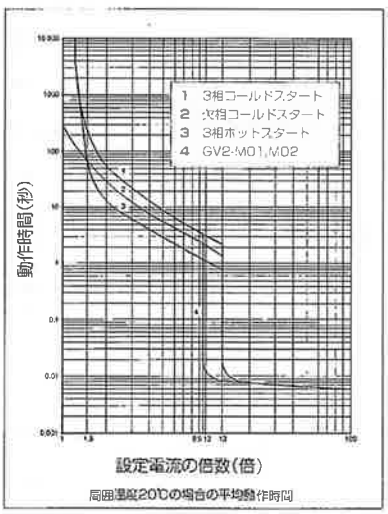
形　式	定格電流（A）（調整範囲）	定格遮断容量（kA）（IEC）		
		230/240V	400/415V	500V
GV2-M01	0.1 ～ 0.16	100	100	100
GV2-M02	0.16 ～ 0.25	100	100	100
GV2-M03	0.25 ～ 0.4	100	100	100
GV2-M04	0.4 ～ 0.63	100	100	100
GV2-M05	0.63 ～ 1	100	100	100
GV2-M06	1 ～ 1.6	100	100	100
GV2-M07	1.6 ～ 2.5	100	100	100
GV2-M08	2.5 ～ 4	100	100	100
GV2-M10	4 ～ 6.3	100	100	50
GV2-M14	6 ～ 10	100	100	10
GV2-M16	9 ～ 14	100	15	6
GV2-M20	13 ～ 18	100	15	6
GV2-M21	17 ～ 23	50	15	4
GV2-M22	20 ～ 25	50	15	4
GV2-M32	24 ～ 32	50	10	4

(2)外形図・動作特性図

■外形図

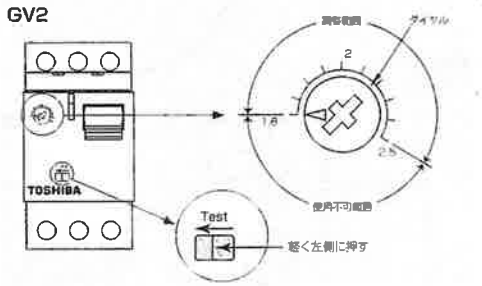


■動作特性図



電流設定の方法

定格電流目盛(RC目盛)ですので、モータの定格電流にダイヤルを正しく合わせてください。調整範囲は表示している最小～最大値の間で、その他の範囲では使用できません。



テストトリップ操作

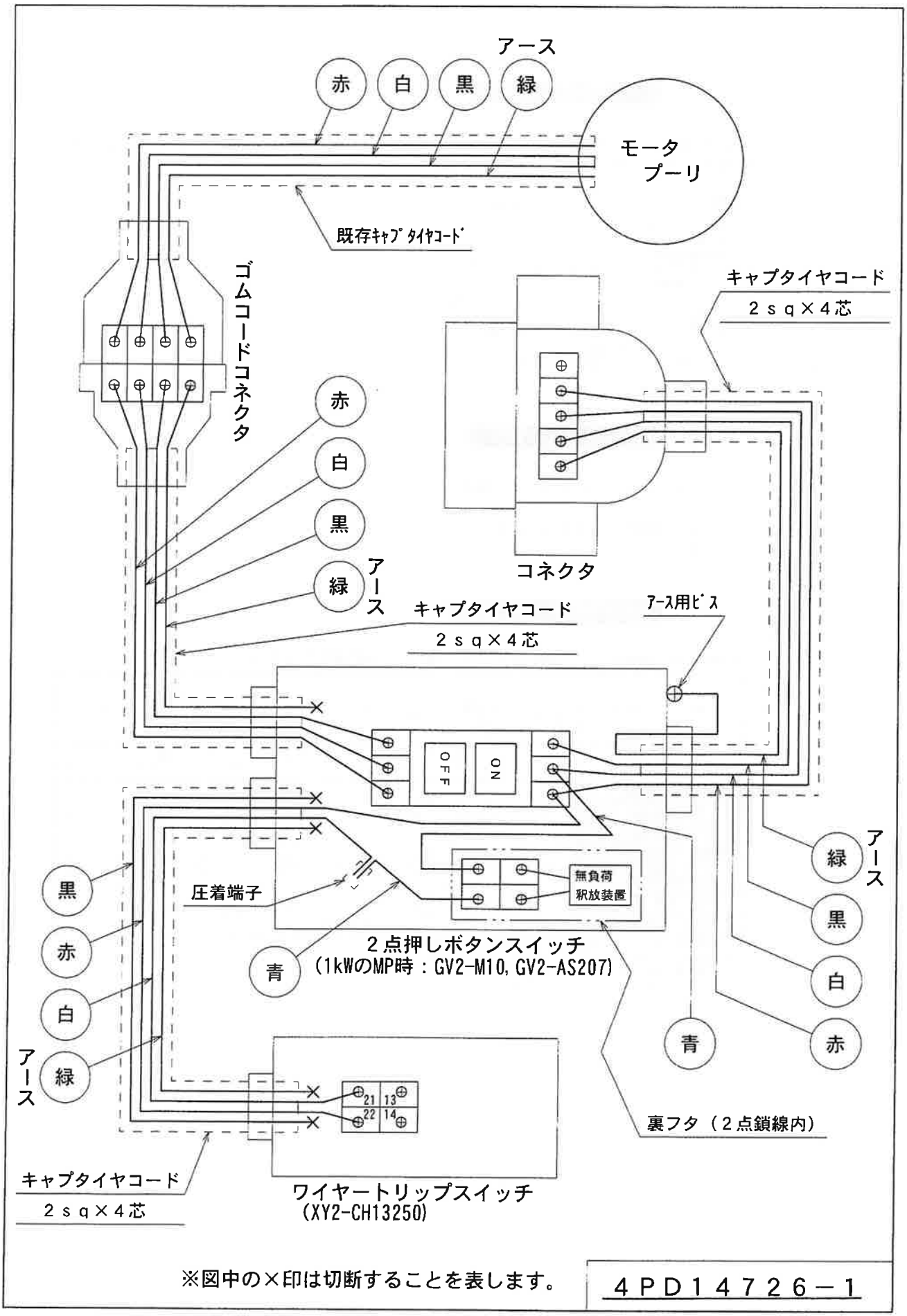
シーケンスチェックのための、テストトリップ操作ができます。
モータブレーカ正面のレバーを図のように押すとトリップします。

接続可能電線と締付トルク

使用条件に合った電線サイズ、圧着端子を選定のうえ、端子ねじを確実に締付けてください。

仕様	形式	本体				オプション			
		端子ねじ	接続電線 単線(Φ)/より線(mm²)	圧着端子(注1)	締付トルク(N・m)	端子ねじ	接続電線 単線(Φ)/より線(mm²)	圧着端子(注1)	締付トルク(N・m)
日本仕様	GV2-RS	M4	1.2～2.6/2.0～5.5(注3)	丸形 5.5-4	1.4～1.7	M3.5	1.2, 1.6/0.75～2.0	先開 2-YS3A	1.1～1.4
欧州仕様	GV2-M	M4	1.2～2.6/2.0～5.5	先開 5.5-4A	1.4～1.7	M3.5	1.2, 1.6/0.75～2.0	先開 2-YS3A	1.1～1.4
	GV2-P								
	GV2-L								
	GV3-M	M8	2.6～5.0/5.5～38	先開 5.5-S4A	4.5～5.5	M3/M3.5	1.2, 1.6/0.75～2.0		0.8～1.2/1.1～1.4
	GK3-EF								
	GV7-RE100以下	M6	—/5.5～60	丸形 60-6	9～10	M3	1.2, 1.6/0.75～2.0	電線直接接続	0.8～1.2
	GV7-RE150以上	M8	—/5.5～60	丸形 60-8	13.5～16.5				

注1：接続電線の最大サイズに対応する日本圧着端子(株)製の形式を示します。
2：箱形端子で素線配線が原則です。圧着端子は参考に示します。
3：定格電流が30Aを超える場合は8mm²の電線、8-4NSの圧着端子を使用ください。
4：GV7-RE100以下はM6ねじ、150以上はM8ねじ。



※図中の×印は切断することを表します。

４ＰＤ１４７２６－１